

## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組1】(A・B中学校)

校内別室を利用している、イラストを描くことが好きな生徒の作品を、支援員と美術科教員が連携し、美術室前の廊下に掲示した。現在は、校内別室を利用する生徒だけの掲示スペースでなく、全校生徒からイラストを募り、掲示するスペースとしている。生徒の自己肯定感を高める取組となった。



社会を明るくする運動を通じて、全校生徒で地域の方々と一緒に地域清掃に取り組んだ。社会の一員として、生き生きと地域貢献をする姿が見られた。



#### 【取組2】(A・B中学校)

学校行事ごとに実行委員が中心となり、生徒一人一人の思いを書き、廊下に掲示している。掲示物を見て各生徒の思いを知り、学校行事を通してきずなを深めるきっかけとなっている。



#### 【取組3】(A中学校)

校内別室で美術科教員によるデッサン教室を開催した。初回の授業は生徒が美術室に行き、デッサンを学習した。その後、校内別室に机を配置し、教員が校内別室で指導することで、居心地の良い環境で学習を進めることができた。



#### 【取組4】(B中学校)

巡回担当校の図書館司書と連携し、不登校に関する新聞記事を収集した。その後、拠点校の管理職と相談し、所属する教員の生徒指導に参考となる新聞記事を校内回覧した。不登校の現状についての情報提供を実施した。

今後は、研究主任と連携して、不登校に関する教員の理解啓発を進めていきたい。巡回校でも、各校の現状を踏まえた上でできることを検討し、不登校への対応の一層の充実を図っていきたい。

## 多様な学びの場を確保する取組

(「早期支援」及び「長期化への対応」の取組)の推進

### 支援会議 (B中学校)

生活指導会議、特別支援会議をそれぞれ週1回ずつ設定している。

それぞれの会議は、生活指導主任と特別支援教育コーディネーターを中心に実施している。管理職、学年、SC、SSW、特別支援教室巡回指導教員、不登校対応巡回教員が参加する。生徒の情報を共有し、今後の支援の方針を検討している。

### アウトリーチによる支援 (C中学校)

不登校対策会議では支援が必要な生徒の情報を管理職、学年主任等と共有し、SSWと連携して家庭訪問を実施することを確認している。会議後、学年主任と担任と対応を決定し、支援を行っている。週に1回は生徒と会ったり、登校に向けて保護者と連絡を取ったりしながら、継続的な支援を行っている。

### 校内別室における支援 (A中学校)

進路実現に向けた学習支援、定期考査の学習支援等を個別に実施している。校内別室に畳を敷き、心身共に休まる居場所を設けている。また、図書館司書と連携し、週に1回、図書室を利用して、読書活動を実施している。また、縄跳びや卓球をして体を動かす活動やカードゲームを使用するグループ活動を週1回程度行っている。



特別支援教育コーディネーター、担任、学年主任と連携し、学校行事への参加に向けた支援も行っている。

### デジタル機器を活用した支援 (C中学校)

#### ○校外学習の取組

事前、事後学習で教室に入ることが難しい場合に、教育支援ツールを活用し、オンラインで参加できるようにした。

#### ○個別学習の取組

一人1台端末で都道府県パズルに取り組み、繰り返し基礎基本の徹底を図った。

### 関係機関との連携

支援員とSSWが情報共有を密に行い、不登校生徒の情報共有をする会議に参加している。管理職と相談の上、特別支援教育コーディネーターや不登校コーディネーター、教育支援センター、子ども家庭支援センターや医療と連携した対応を推進している。

## 成果

全校に設置された校内別室を活用し、生徒の新たな居場所を作ることができた。教室に入ることが難しい生徒がエネルギーを溜め、教室復帰や登校日数の増加につながった。

## 課題

誰もが安心して利用できる校内別室にするためのルールを調整する。全教職員で不登校への理解を深め、対応力の向上に努める。